

国際サーカス村通信 Vol.23 No.01		2018年10月19日(金)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel 0277-70-5010 Fax 0277-97-3688 <a href="http://www.circus-mura.net">http://www.circus-mura.net</a> k-nishida@accircus.com		



←豊島横尾（忠則）館（香川県小豆郡）

## ●明日のサーカス学校は

サーカス学校を始めて17年。その間、福島第一原発爆発事故で拡散した放射能のために、一時休校を自主的に選択するなどの苦汁を味わったりしながらもなんとか持続してきたが、今年7月の発表会を最後に、とりあえず休校せざるを得ない状況となった。学校運営に必要な人数の生徒が集まらない、それは同時に学校運営の資金不足となり、サーカス村協会としてもこれ以上の赤字経営はできないために選ばざるをえない道であった。

だが、ここで学校を諦めるというのは、個人的にすっきりするかもしれないと思うものの、そうする気持ちにならなかったのは、あるいはいづらか女々しいかもしれないし、事実、諦めが悪いなという方もいらした。だが、なんとかならないかなと思い、来春までに、一定程度の生徒が集まれば再開するというので、現在、生徒募集の活動を続けている。また、サーカス学校の体育館を使い続ける意図もあって、9月にはふくろこうじ氏のクラウンWS、10月には山本光洋氏のパントマイムWS、そして11月には、サーカス学校卒業生・油布直輝のシルホイールWSを企画、実践している。

来春からサーカス学校に行きますという生徒は現状なかなか集まっていないのだが、一方で「是非再開してください」という中学生の声を聞かされると、なんとかその声に応えたいと思ってしまうのは、それがサーカスの力のひとつだと思えるのだが、極めて個人的な僕の思い込みのようなものかもしれない。

\*

10月上旬、二泊三日で友人と瀬戸内海の豊島に旅をした。京都の南丹市で有機農業をやっている彼は、サーカス学校休校の連絡に、ある意味僕のことを心配してくれて、この旅に誘ってくれた。僕もまた、休校後のプランのひとつに、古い、気のおけない友人である彼とあって話しをしたかったので、この誘いはなんとも嬉しかった。

豊島といえば、2010年に造られた豊島美術館が有名だと思い資料を見てみると、2013年の瀬戸内国際芸術祭の一環で造られた豊島横尾館というのもある。このあたりの島々は2010年から行われているトリエンナーレ瀬戸内国際芸術祭の舞台で、実はサーカス学校もこの年の8月28日、サンポート高松小ホールで、シアターX企画の芸術祭で作った「勝ってたまるか、剣振丸」という作品を上演している。さらに2012年には、福島原発事故後のサーカス学校休校期間の3月から5月にかけて行った旅公演「旅する道化師と大道芸人たち」で、5月の四国巡業で、男木島、女木島、直島、小豆島などで公演を行っている。この時、僕は直島で脊椎骨折をしてしまい、途中から旅についていけなくなったのだが。

と、そんなことを思い出しつつ、友人と豊島でサーカス学校の今後について雑談しながら、彼から、現在の群馬のサーカス学校から離れてみる気持ちはあるのかと問いかけられた。

これまでも、「こちらに来て、サーカス学校をやりませんか？」という話しがなかったわけではないし、放射能汚染を避けての休校中は、サーカス学校移転場所を探しに、幾つかの廃校を訪ねたりしたこともあるが、練習場所だけではなく、先生や生徒の宿泊施設を考えると、簡単に移転できないことに気づかされ、何よりも地元で協力してくれている友人のことを考えると、移転する気持ちになれなかったのである。しかし、今回は状況が違っているというか、生徒が集まらないという状況での休校であり、そのことが語りかけているのは、何よりも過疎化する村にサーカス学校はあり、ここで数年間自炊して芸を学ぶという条件そのものが、サーカスを学びたい若い人にとっては、極めてハードルが高いということ。そうした声を、入学希望の若者の声として、度々聞かされているだけに、なんらかの形でサーカス学校を継続していけるのであれば、場所も形態も厭わずというか、もしも「こちらでやりませんか」という声があれば、そこでの可能性を追求すべきではないかと考えるようになっていたので、彼の問いに「やれるところがあれば、どこでも身売りするよ」と答えた。そのように答えたのは、気のおけない友人の問いかけであり、あるいは、彼は彼なりになんらかの目算があってというか、サーカス学校の活動をひとつの文化活動として話しのできる知人が彼にはいることがわかっていたからである。

野口体操の野口三千三さんが、戦後間もない頃、東京芸術大学にサーカス学部を作ろうとして、教授連に相手にされなかったという話がある。あるいは、今もサーカス学校というか、実技中心のサーカスを学ぶということ、文化・芸術活動として認識しているインテリ、文化人は多くないにちがいない。いや、そうであればこそ、サーカスを専門的に学ぶ学部をつくる高校、大学があっても少しもおかしくない。というよりも、サーカスを文化・芸術のひとつのジャンルとして育てることができないのは、文化行政として思想的貧困といっても決して言い過ぎではないだろう。

とはいえ、実際にサーカス学校活動で感じてきた、登校拒否の若者たちがサーカス学校で、徐々に練習になれば、一人前のパフォーマーとして成長してくる姿を見ていると、あるいはサーカスや大道芸を文化・芸術だと言って教えることで、そうした学校嫌いの若者がやってこないようでは、それは本末転倒とまでは言わなくても、やはりいささか疑問を拭えないことになる。

それでも、今はサーカス学校をなんらかの形で存続させるために、いろいろな方々のご意見を聞き、また可能性がある場所があれば足を運ぶつもりなので、ぜひ、お声をかけてください。（西田 敬一）

## ● 沢入国際サーカス学校で合宿しながら学ぶワークショップ・シリーズ第一弾

### 「ふくろこうじ氏のクラウン・ワークショップ」が無事に終了しました



去る9月17日から21日に、休校中のサーカス学校でふくろこうじ氏のクラウン・ワークショップを開催した。参加者は延べ7名だったが、皆、熱心に受講しているのが印象的であった。これまで何度となくナージャ先生のワークショップを行っているが、こちらは身体的なトレーニングが主なので2日目ですでに筋肉痛で悲鳴をあげるものが何人もいるのだが、今回はクラウニングなので筋肉痛で悲鳴をあげるものはいなかった。が、要求される頭の体操(?)はそれなりにハードなものがあったようである。

参加者はいろいろな経歴の持ち主で、これまであまり身体を動かしたことがない方もいらしたが、常識に「？」をつけたり、色々なもののそれ本来の用途以外の使い方、別なものに見立てていかにもそのものの価値がそこにあるかのように使ってみるといったクラウニングの面白さ、それを見つけるために頭をひねるといったワークショップにはまるというか、楽しみ悩むという時間を過ごしたようである。

ある日の夜には、宿泊場所である資料館でクラウンメイクにもチャレンジした。こーしろあーしろなど、強制をしないふくろこうじ氏の指導は、受講生の気持ちをしっかり掴んでいたようだ。

これは一回で終わるのは勿体ないというか、二度三度と続けるべきだなとの印象をもったが、さて、そのように計画できるか。冬の間はサーカス学校は寒すぎて使えないので、これまた悩まされてしまう。東京で開くことも不可能ではないのだが、周囲に出かけることのない山の中で、泊りがけで行うワークショップにはそれなりにメリットがあるというか、そのことに集中できるし、講師に色々聞くこともできるので、都会で行うのとはかなり違った価値があるのではないだろうか。

## ● 会費振込のお願い

サーカス学校は休校していますが、サーカス村協会の活動は続いています。休校期間中は、資料館の資料整理に集中するとともに、来春の公演依頼がすでに何件か舞い込んでいます。サーカス学校卒業生グループによる活動、また、日々の活動のなかでサーカス学校再開のアピールをしていきたいと思っておりますので、会費納入をお願い申し上げます。尚、今回の休校を機に会員をお辞めになりたい方は、ご遠慮なくお申し出ください。

年会費 5,000 円

口座番号 00180-8-106528 国際サーカス村協会 ※同封の郵便振替用紙もご活用ください。

## ● 総会のご案内

同封ハガキにてご出欠をご連絡いただきますようお願いいたします。

日時 11月26日(月)17時より

場所 NPO 法人国際サーカス村協会 東京事務局 TEL03-3403-0561

議題 前年度事業報告・会計報告(別紙) / 今年度事業計画 / サーカス学校の今後 / 理事及び監事選任

## ● [参加者募集中] 沢入国際サーカス学校で合宿しながら学ぶワークショップ・シリーズ第三弾

### 第三弾「油布直輝のシルホイール・ワークショップ」

■日程 2018年11月19日(月)～23日(金・祝)

※シルホイールレンタルあり(別途2,000円)。2人1組で1本を共用していただく可能性があります。

19日(月)18時 サークス村 サークス資料館集合・ミーティング

20日(火)～22日(木) 朝9時30分から17時までサーカス学校体育館にてWS  
(昼休み/昼食時間 12時～13時半)

23日(金・祝) 午前中、練習。午後解散

■参加費 全日程参加;35,000円(1日単位;8,000円)

※ワークショップ費・宿泊費・朝&晩の食事代・保険代が含まれています。但し昼食は各自購入。

■持ち物;トレーニング着・トレーニング靴・常備薬・洗面用具・タオルなど

※半袖Tシャツと長袖のパーカーなど、体温調節しやすい服を持ってきてください。また、学校や宿泊施設は山の中にあり、徒歩圏内にコンビニ等ありません。昼食を購入するときはコンビニまで車で送迎します。

■募集人数;10名 ※5名に達しない場合、開催を見送る可能性がございます。予めご了承ください。 ■締切;10月末

■場所; <練習場所>沢入国際サーカス学校 体育館 〒376-0301 群馬県みどり市東町沢入 491 旧沢入小学校  
<宿泊場所>サーカス資料館 〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1

■連絡先;国際サーカス村協会 東京事務局 TEL03-3403-0561(担当;長屋) メール a-nagaya@accircus.com



## サーカス公演情報

### ★木下大サーカス

●柏公演 公演期間 2018年9月15日(土)～2018年11月26日(月)

●休演日 毎週木曜日と10/17(水)、11/14(水) ●会場 柏市大島田 セブンパークアリオ柏特設会場

●電話 柏公演事務局 TEL04-7193-1170 ●ウェブサイト <http://www.kinoshita-circus.co.jp/>

### ★ポップサーカス

●群馬公演 公演期間 2018年9月22日(土)～11月25日(日) ●休演日 毎週木曜日と11月9日(金)。

●会場 イオンモール高崎 大テント(東側第2駐車場)住所/群馬県高崎市棟高町1400

●電話 群馬公演事務局 TEL027-388-0814 ●ウェブサイト <http://www.pop-circus.co.jp/>

### ★ハッピードリームサーカス

●米子公演 2018年9月14日(金)～11月12日(月) ●休演日 毎週水曜日

●会場 「イオンモール日吉津」北側駐車場 大テント特設会場

●電話;米子公演事務局 TEL0859-21-8063 ●ウェブサイト <http://www.dreamcircus.jp/>

### ★野外民族博物館リトルワールド「メキシコサーカス」

バランスブランコやヘアスイングなどバラエティ豊かなサーカスショーをお楽しみください!

●期間/時間 2018年9月15日(土)～11月25日(日) / 平日 11:30・14:00 土日祝 11:00・13:00・15:00

●休演日 毎週火曜日 ●会場 野外民族博物館リトルワールド 野外ホール

●お問い合わせ リトルワールド TEL0568-62-5611 ●ウェブサイト <http://www.littleworld.jp/>